

第8回新しい学校づくり三好市・東みよし町地域協議会議事録

平成22年1月28日(木)7:00～9:00

辻高等学校 研修会館

【協議題】「新しい学校の教育内容等について」

【協議】

委員

これまで新しい高校の教育方針，設置学科，特色ある教育など教育内容を中心に協議してまいりましたが，委員の皆さんから，現段階で妥当な計画を策定しても，今後の生徒数の減少によって，新しい高校が開校を迎える頃には，地域の状況には合致しない計画になるのではないかと，あるいは，この地域の普通科も生徒数から見ると，1校でも対応できるようになるのではないかなど，いろいろな課題を指摘されているところであります。

委員の皆さんからいただいた課題の多くは，この地域の予測を上回る急激な生徒数の減少から起こる課題かと思っておりますので，協議を始める前にこれまでも説明を受けておりますが，再度事務局からこの地域の生徒数の推移につきましてご説明をいただけたらと思っております。また，あわせて新しい高校の開校時の学校規模はどれくらいを考えているのか，将来的にはどれくらいの規模になるのかについても説明をいただけたらと思っております。

三好市・東みよし町の中学3年生の生徒数についての説明

県教育委員会

辻高校と三好高校が再編統合した場合の新しくできる高校の学校規模を，生徒数で申し上げます。新高校の生徒数は，新高校を池田高校と同規模の学校と考えると，あくまでも予測ですが，平成25年頃には170名程度，それから平成30年頃には130名程度，平成35年には110名程度になると考えております。つまり，池田高校もその数であります。110名程度になった場合，新しい高校は普通科が80名程度，農業科が30名程度になると予測をしております。

現在の案にある教育内容の教育を行うことは，可能であると思っておりますが，将来的には普通科のコース数や農業科の学科数等の精選をする必要が出てくると考えております。

委員

ただ今の説明も踏まえまして，この参考資料にあるような形で報告書を提出してよいのか，また2校の再編統合についての課題や，さらにその課題に対するご意見などをお伺いできればと思っております。

ご意見をいただいた後で，それらの課題を整理して，協議を進めることにいたしたいと思っております。問題点やお気づきの点について，ご発言をお願いしたいと思っております。

委員

今、平成25年、平成30年、平成35年の池田高校と新高校の生徒数の基準を教えてください。その数字の根拠を説明していただけたらと思います。

県教育委員会

今の定員を元に考えております。三好地域全体の生徒数の85%程度（定員設定率）が、ここの3校全体の定員となっております。その比率のままとしたら、先程の生徒数になります。

県教育委員会

必ずしも、中学校3年生全員がこの三好の3校に入学するのではなくて、県外の高等専門学校や他地域の高校へ行く生徒もおります。その割合を加味した上で、生徒数に定員設定率をかけて2校で割れば、先程説明させていただいた数字になります。

委員

今、説明いただいた数字から見たら、平成36年の数字なら、池田高校も含めて1校でよいと思います。

法律にある1学年80名、3学年で240名の数字に近いので、この2校だけの議題ではないと思います。

産業、経済から考えて、基本的にここの地域を存立させる学校を考えていかなければいけないのではないのでしょうか。今まで、いろいろ議論されているので、それを集約する時期だと思います。

委員

平成36年までは、実際にこの地域で生まれている子どもの実数なので、これからよほど他から入ってこなければ増えない。それだけ現実的に厳しい状況だと思います。

委員

今から平成36年の対応をどうするのか、1校にしてしまうのかという方向にするのは、ちょっと無理があると思います。

委員

やっぱり2段構えで考えて、この協議会では、2校再編統合ということで協議を進めて、結論を出していった方がよいと思います。

委員

池田高校と新高校が同じ規模ということで安心はしているんですが、平成27年や平成33年の時の生徒数、クラス数を教えてもらいたいと思います。

県教育委員会

平成27年では、だいたい160～170名ぐらいで、4～5クラスになります。平成33年では、120名程度になりますので、3～4クラスになります。

委員

進学に対する専門的な指導をするには、何クラス必要か教えてもらいたいと思います。

委員

現在、池田高校は3年生が6クラス、2年、1年が5クラスです。来年度は各学年5クラス、全部で15クラスになります。理系や文系のように専門的な教育をする時に、専門的な科目の先生を配置しなければいけないので、1学年5クラスが限界だと思っています。4クラスになると、厳しくなると予想しています。

委員

平成27年のように160名の状況になると、4クラスになりますか。

委員

今の法律でいけば、4クラスになります。現に今度の1年生の募集定員が180名なので、160名に近づいている状況になっています。

県教育委員会

来年度の高校1年生の生徒数は、旧三好郡、旧美馬郡ではかなり減りましたので、三好の3高校につきましても、定数を少し減らした状況です。

平成27年頃までは、池田高校と新高校が5クラスずつ確保できるような予測になっています。平成28年から平成30年には、両方ともが5クラスを維持することは難しくなってくると予測しています。ただし、今の予測は、池田高校と新高校を全く同じ定数で、生徒数を2で割った場合です。

委員

この地域に必要な学科を考えて、農業や林業や介護を専門的にする新高校と普通科の池田高校にするのがよいと思います。

また、将来的に道州制になって、四国として1つになれば、普通科であれば川之江に行くこともできるので、この地域で残したい学校を考えることが大切だと思います。

委員

再編統合をするのなら、他の地域からも来てもらえるような魅力ある学校にして欲しいと思います。当たり前な学校を作れば、今以上に減ってしまうと思います。

委員

この協議会は、2校の再編統合の協議をするところでありますが、数字から言うと、池田高校を含めた1校化の話は、近い将来に出てくると思います。したがって、この協議会の結論の1つとして、池田高校を含めた再編統合を考える次の協議会が必要になってくるというのを入れてもよいと思います。

それと、経過のところ、この地域に看護科の話が出たことを必ず入れて欲しいと思います。

また、三好高校の場合は農業、林業が特色なので、残しておくべきですが、今までのやり方ではなく、生活に結びつくような授業をするなど魅力ある内容にする必要があると思います。

委員

今までに今後の課題として8つ出ており、意見は出尽くしていると思うので、これをいかにまとめるのが大事だと思います。我々としては、現状を踏まえて、この地域が発展するような学校を残さなければいけないと思います。

委員

意見は出尽くしているので、まとめた案を出していただいて、最終的にこの協議会で討論すればよいと思います。それがだめであれば、別の会でやり直すことでよいのではないですか。

委員

池田高校1つにして、普通科だけになれば、今、三好高校、辻高校に希望している子どもは、三好地域以外の高校に出て行くことになる。逆に三好と辻高校の新高校だけを残すと、普通科希望の子どもが出て行くことになると思います。

したがって、池田高校を残して、辻と三好の新高校の2校にして欲しいと思います。

委員

ハローワークで調べたんですが、この地域で何を持っていると求人があるのかというと、ヘルパー2級が多く、ヘルパー2級の構想を残したのは今の実情に合っていると思います。それと、ヘルパー2級より上級の資格が欲しかったという意見があったことを、残して欲しいと思います。

委員

三好という地域性を考えた場合、農業や林業、さらに情報や福祉を大事にした高校、その特色を最大限に活かしていく方向で進めるのが必要であると思います。

生徒数が急激に減ってくるので、高校2校の定数を考慮していく工夫も必要であると思います。

委員

最終的には、1校にするという認識には賛成であるが、2段階に設定して、まず第1段階では池田高校と新高校を作って、その内容についてはしっかり考えなければいけないと思います。

委員

三好地域の子どもたちにとって、何が本当に一番大切なのかということを実際に考えなければいけないと思います。

三好高校は3高校の中で一番生徒数が少ないですが、地域にとって重要な役割を果たしていると思います。もちろん大学に進学することも大切ですが、この地域の中で高校を卒業して就職する子どもたちを宝のように考えて、支援していく教育システムを残さなければ、三好地域を支える基礎がどんどん流出していきます。

時間をいただけるのであれば、各学校とも努力をして、魅力ある学校づくりに邁進したいと思っています。各学校とも地域の子どものために、改革をしていくという方向性を持っているということを実際明記していただければと思います。

三好高校については学科再編をして、統合までの期間を魅力あるものに作り変えていきたいと考えています。学科再編の内容につきましては、議論していただいたものを先取りさせていただく形になると思いますが、生物資源類を食農科学科と森林環境科の2学科に学科再編させていただいて、農業と商業、3クラス3学科という形で活力ある、魅力ある高校を作りたいと考えています。

委員

三好地域出身で三好地域の小・中・高校の教員をしている人数はどれぐらいいるのですか。

三好地域の子どもは、私たち三好出身の教員がしっかり徹底的に教育し、学力もつけることをしないと、地域の教育は振興しないと思います。三好地域から教員になる人をしっかり育てて、たくさん先生を出していくことは将来のことを考えると必要ではないでしょうか。そのために、特別な学科等を作らなければいけないのなら、作って欲しいと思います。

委員

辻、三好両高校の教育について、より効果的にするにはどうするかを考えていきたいと思っています。ただ、生徒数にこだわって話を続けると、三好地区全体のことを危うくすることがあるかと思っています。

辻高校も定員が減少しているので、コースの再編を考えて、より効果的な教育、そして地元にとってどういう人材が必要で、地元に残るためにはどうすればよいかを考えています。

資格取得についても、随分変わってきています。辻高校でヘルパー以上の資格を取得するには、どういう工夫をしなければいけないのかを考えることも大事だと思います。

三好地区全体の教育について、地域の子は地域でという考えがあるので、普通科だけでなく、いろいろな受け皿も必要だと思います。

辻高校においても、普通科という枠では資格取得が難しいのであれば、コース制を活かして、福祉や情報、商業等について、生徒が希望を持って来れるようにすることも大事だと思います。新高校が出来るのを待っているだけでは、辻高校の発展はないと思うので、今の状況の中でも最大限の工夫をして、三好高校のように辻高校でも何が出来るかを考えていきたいと思っています。

辻高校としては今のコースの中で、特色ある、丁寧な指導をしております。できるだけ今の状況を活かして、工夫したものを考え、新たな方向に行くのであればそれを視野に入れていきたいと思っています。

委員

地元の高等学校の教育に対して、地域の方々から率直なご意見をいただくということは、今までなかったと思います。池田高校に対するご意見もいただいておりますので、学校に持ち帰り、先生方におろして、先生方からの意見をまとめて、本校の新たな教育をどうすべきかということをもとめて取り組んでいきたいと思っています。そういった取り組みをする中で、次につながるような形にしていきたいと思っています。

今の高等学校に求められている専門的な資格には限りがあります。それを過度にいろいろな面で要求されると、学校の教育が展開しにくくなります。

資格のレベルが上がっているので、高等学校ではどういったレベルをしなければならぬのかは、我々が考えていきたいと思っています。

委員

この協議会での協議はほぼ出尽くしたのではないかと思います。

この協議会は、辻高校と三好高校の2校再編の枠組みの中で協議しておりますが、その枠組みの中では、今まで煮詰めてきた案、即ち、両校のこれまでの教育内容等を継承し発展させたこれまでの案になると考えております。

しかしながら、一方で、予測を上回る急激な生徒の減少により、委員の皆さんから、この2校の再編統合に関して、改めて、様々な課題を指摘いただいております。

私としても、三好地域の再編統合を考えるにあたっては、「この地域の子どもは、この地域の高校で教育し、そして、この地域を支える人材を育てる」という視点が大事であると考えております。

そうしたことから、辻と三好の両校を再編統合する際には、三好地域の高校教育全体を考える視点から、新しくできる高校と池田高校の役割分担についてしっかりと考えた上で、三好地域全体として、子どもたちの進学や就職に対応できる、より安定的で持続可能な体制にすることが一番重要なのではないかと思います。

本日の協議会では、後で新高校の校地についても協議が必要であると思っておりましたが、それより先に様々なこれらの課題をクリアしなければ、校地を協議することは難しいのではないかと思いますし、三好地域の高校教育は語れないと思います。

この協議会での意見もほぼ出尽くしたと思いますので、可能ならば今年度中に報告書を提出することができればと考えております。

そこで次回は、これまで協議してきた内容を「報告書としてどうまとめるか」ということを協議したいと思います。「報告書のたたき台」を作って、そのたたき台をもとに、委員の皆さんと協議したいと思います。

以上を持ちまして、本日の協議を終了いたします。